

地域再生計画の中間評価の実施状況

1 地域再生計画について

(1) 名称

高速交通網の効果を飯田市の地域社会経済振興にいかすための道整備計画

(2) 計画の期間

令和5年度～令和9年度

2 中間評価委員会

(1) 実施期日

①日時 令和8年8月18日（火）11時00分～12時00分

②会場 飯田市役所

(2) 出席者

<地元まちづくり委員会、関係事業者>

座光寺地域自治会 会長 牧野光彰 氏

千代地区まちづくり委員会 会長 清水俊一 氏

上村まちづくり委員会 会長 前島道広 氏

南信濃まちづくり委員会 会長 遠山典男 氏

飯伊森林組合 代表理事 専務 吉澤悦司 氏

<行政関係機関>

座光寺自治振興センター、千代自治振興センター、南信濃自治振興センター

<事務局>

飯田市企画課、土木課、国県関連事業課、林務課、遠山郷観光振興室、

結いターン移住定住推進課、上村自治振興センター

(3) 地域再生計画における目標の達成状況や今後の方針について事務局より説明

(4) 質疑

○登山届出システム・ココヘリが活用されているのは良いことだと思う。登山者全体のうちどのくらいの観光客が活用したのか。また、活用した人のうちどの程度の割合で機能したのか数字があれば教えてほしい。

(事務局回答)

・登山計画書の届出を行う登山客は全体の5割ほど。そのうちココヘリ受信機を借りた方について具体的な数字は無いが、それほど多くないという印象。

○目標3の林産事業量（木材の搬出量）が中間目標に達していないとのことだが、今まで一生懸命に取り組んでいただいてこの数字なのだと受け止めた。目標設定自体も検討が必要だと思うがどうか。

(事務局回答)

- ・森林整備が間伐から主伐・再造林への転換期と重なったことも影響している。飯田下伊那は急峻な地形だが、伐期を迎えた森林は多くあるため、効率良く搬出できるよう飯田市として支援していくことが必要と考えている。令和8年度には架線集材に関する補助制度を創設したため、本制度と併せて搬出量増加に向けて取り組んでいきたい。

(5) 意見

- 目標3の林産事業量の増加（木材の搬出量）は中間目標値に達していないが、飯伊森林組合としても、油圧式集材機をフル活用しながら最終目標値を達成できるよう市と協力して取り組んでいく。目標達成のためには林道整備が必要になるため、事業期間の延長と事業費増額の方針は、ぜひそのとおり進めていただきたい。
- 林地残材や未利用材の搬出に対する補助制度は、飯田市が最初に取り組んでくれたもので、山で働く立場としてありがたい。
- 市道座光寺168号線他については、座光寺スマートインターチェンジからアクセス道路に繋げる工事は順調に進んでいると思う。現在、通勤時間帯に座光寺スマートインターチェンジからの車により混雑している箇所があるため、市道座光寺168号線他を活用するなど検討してほしい。
- 林産事業量の増加については遅れがあるものの、事業の中間評価としては概ね了解できるものとする。地域社会の経済振興に寄与するよう、今後も着実に事業推進されることを願う。
- 林道千遠線はせっかく開通したが通行止めとなっている（※別事業による橋梁工事のための通行止め、令和8年度中には完了予定）。景観の良い道であり観光資源になり得ることから、観光入込客数の増加のためにも青崩峠トンネルの開通を見据えて、千遠線も通行できるようにしてほしい。
- 地域再生計画の2年延長はやむを得ないと思うが、物価高を考慮すると、事業が遅れれば遅れるほど必要経費も高くなることが懸念されるため、事業進捗を厳しく見てもらう必要がある。財源となる市費及び国費はどちらも我々の税金であるため、事業費についても同様をお願いする。



3 事後評価調書の公表

中間評価調書及び本書を飯田市ウェブサイトで公表する（令和8年8月）。